

東北大学機械系

同窓会ニュース

第 22 号

叙勲	2
最近の東北大学機械系同窓会	3
教育の真の門戸解放に向けて	4
ダブルディグリー制度について	5
青葉山コンサートのご紹介	6
近郊・学外見学報告	6
海外留学体験記	7
桑野博喜教授最終講義	8
同期会報告	9
総会・講演会のご案内	19
学生支援報告/事務局便り/編集後記	20

東北大学機械系同窓会

〒 980-8579
仙台市青葉区荒巻字青葉 6-6-01
東北大学工学部機械知能・航空工学科内
電話：(022) 795-6926
FAX：(022) 795-6926
E-Mail：dousou@mech.tohoku.ac.jp
ホームページ：
<http://alumni.mech.tohoku.ac.jp/>
郵便振替口座 番号 02270-8-11176
名称 東北大学機械系同窓会
印刷 笹氣出版印刷株式会社

会費納入のお願い

同窓会は、会員皆様が納入される会費によって運営されています。同封の振込用紙を使って会費納入をお願い致します。

◎年会費 2,000 円

加藤正名名誉教授、 瑞宝中綬章を受章

名誉教授 井上 克己



平成28年秋の叙勲において、本学名誉教授加藤正名先生が瑞宝中綬章を受章されました。永年に渡る教育と研究に対するご功績が高く評価された真に喜ばしい知らせでした。

加藤先生は、昭和11年に東京都にお生まれになり、山形大学工学部機械工学科を卒業後、東北大学大学院工学研究科精密工学専攻修士課程、同博士課程を修了され、東北大学工学部助手、講師、助教を経て、昭和57年4月に教授に昇任、精密工学科精密機械要素学講座を担当されました。大学院重点化後の平成7年からは機械電子工学専攻ナノ加工学講座精密成形学分野を担当し、平成12年3月に停年により退官され、同年4月に名誉教授にられました。

先生はこの間、高強度浸炭歯車の強度評価、伝動装置の振動・騒音解析、振動インテンシティーの高精度非接触迅速計測法とプローブの開発、トラクシヨンドライブ油特性評価法の提示、液中放電成形や電磁成形などの高速塑性加工における成形力発生機構とエネルギー効率の解明など、機械工学の広い分野で先導的な研究をされ、平成6年に英国歯車協会 BGA Technical Committee Prize、平成8年に日本設計工学会論文賞を受賞されました。

また、日本機械学会等で調査研究分科

会主査、評議員、理事、東北支部長などを歴任し、学会の発展および大学と産業界との協力関係の構築に多大な貢献をされました。これにより、平成7年に日本機械学会機素潤滑設計部門功績賞、平成12年に米国機械学会 The Power Transmission and Gearing Committee Prize、平成16年と23年に日本塑性加工学会功労賞などを受けました。

先生はこれら学内外の研究活動に裏打ちされた教育と研究指導によって多くの研究者と技術者の育成に尽くされました。「研究や組織を溯ると一人の人間に辿りつく」ことに注目し、そのような卒業生を期待して「教授のコピーを作ってはいけない」ことを信条として、学生自身が考え研究し考察する力を獲得するよう個性を大切にされた指導をされました。さらに、早い時期から国際交流の重要性を認識し、本学と中国重慶大学および韓国全北大学校との部局間協定締結に尽力され、これら大学出身の多くの留学生の研究を指導して、現在に続く国際交流の中核を担う人材に育てられました。

本学退官後の平成12年4月に秋田県立大学システム科学技術学部教授に就任し、開学直後の教育に力を注いで、文部科学省教育COE選定につながる成果を挙げ、秋田県の科学技術会議や産業教育審議会の委員として地域と社会に貢献

されました。平成19年から学校法人尚絅学院の評議員、理事長、学院長を歴任して私学の教育と運営にも尽くされ、平成23年3月の東日本大震災では、震災による退学者の発生を防ぐ配慮や、被災地域と大学が協力するボランティア活動にも貢献されました。

今回の受章は、上述したご専門の学術研究とそれに基づく教育、地域と社会への貢献等が結実したものです。本会員の皆様にお知らせし、お慶び申し上げます。



最近の東北大学機械系同窓会

機械機能創成専攻 教授

足立 幸志

本年度の東北大学機械系同窓会代表幹事として、本会の活動についてご紹介させていただきます。

「会員間の親睦を図り、向上発展を期し、併せて母校との関係を密にすることを目的として、これに必要な事業を行う。

1. 総会、新入会員の歓迎会等の集会の開催、2. 会誌、会報等の発行、3. 会員情報の整備と発行、4. 機械系学科・専攻との連帯事業、5. その他」このような会則のもとに平成7年に発足した東北大学機械系同窓会は、本年度22年目を迎え、機械系の卒業生、修了生、教員等で構成される会員数は13,245名となっておりです。

同窓会発足初期より継続している事業が、同窓会誌とニュースレターの発行です（P.18の写真をご覧ください）。雑誌である機械系同窓会誌は本年、第20号を発行し、このたびの同窓会ニュースは第22号の発行となりました。趣味の世界、旅行記、随筆等、会員皆様にご執筆いただきます記事を中心に掲載する同窓会誌は、お互いの近況を垣間見ることのできる雑誌であり「会員間の親睦」の一助になることを目指しております。一方、「母校との関係」を密にするための一助になればとの思いから、同窓会ニュースでは、開催された同期会の様子に加え現在の機械系の様子を紹介しております。これからも発行いたします同窓会誌、同窓会ニュースが、大学時代の同級生、先輩、

後輩、恩師、研究室として母校に思いを巡らせていただく機会の提供となれば大変われしく思います。

同窓会誌や同窓会ニュースの紙媒体に加え、簡便かつ有効な情報共有源、情報提供源として当会でも本年、ホームページをリニューアルいたしました。「東北大学機械系同窓会」と検索いただければすぐに辿り着くことができました。同窓会誌、同窓会ニュースとは趣の異なる母校への思いを巡っていただけますよう同窓会幹事の皆様が、様々な改良と工夫をしております。是非、一度アクセスいただき東北大学機械系同窓会の今を感じていただければ幸いです。加えて「東北大学機械系」、「東北大学工学部」、「東北大学」などを検索いただければ東北大学の今をご覧いただけます。機械系でも広報推進室を中心に最新情報を掲載しております。

インターネットでのアクセスが、地下鉄の通つた青葉山に足を運ぶ良ききっかけになっていただければ大変うれしく思います。そして、機械系に足をお運びいただきますと、本会創立10周年を機に設置いたしました火力発電用蒸気タービンロータ (<http://www.mech.tohoku.ac.jp/dousou/Information/02/index.html>) が目に入って参ります。機械系の建物を背景に立つ火力発電用蒸気タービンロータの姿は、工学研究科を代表する風景の一つとして東北大学生活協同組合が作成する東北大学カレンダーにも採用されており、今や機械系のシンボルとなっております。設置後12年を経過しておりますが、その姿は現役そのものであり日々目にする学生にとりましても刺激的な機械となっております。

一方、それらを目にする学生達に目を向けますと、年間250人ほどが大学を巣立ち機械系同窓会正会員となっております。「近頃の若者は」といわれるのは世の常ですが、本会が設立されてから22年間、現場にいらせていただいた一教員としては、学生気質に今も昔も変わりはなく、良き意味でも悪い意味でも学生を謳歌し成長し旅立っていると感じております。ただ、6年前に開設された国際学士コースに代表されますようによりグローバルな大学として外国籍の学生数の増加や女子学生数の増加という数字的な変化は起きております。女子学生の割合が1割を超える学年もあると耳にされますと、同窓会会員の皆さんにとりましては大きな変化と認識されるかもしれません。

東北大学学生歌「青葉もゆるこのみち」には、我らこそ「国の礎」、「学徒の誇り」、「世界のかなめ」とあり、さらに「未来ある若者は常に強し」とあります。機械系のキャンパスにおいてもそのような気概で学生達が学んでいる様子は今も昔も変わらぬ風景と言えます。それゆえ本会といたしましても工明会運動会、機械系女子交流会、卒業・修了時の謝恩会などの学生主体の行事への支援や青葉記念会館へのグラウンドピアノの寄贈など、学生を謳歌し様々な意味での成長を期待しつつ可能な支援を継続して行っております。特に4年前からは、同窓会の強みを生かし機械系学生と機械系卒業生との融合の場を提供する「機械系オープンフェスティバル」を開始いたしました。卒業生が所属する100社を超える企業にご参加いただき、学生達は社会で活躍し

ている卒業生に自分の将来像を重ねながら、企業とは、社会とは、働くとは等、様々な情報を収集しています。また学生が知っている知名度の高い企業のみならず、活躍する先輩の話を通し、世界を支えている様々な企業の存在を身をもって体験することにより社会的視野を広げており、学生の成長を同窓会会員（卒業生）の皆様が支援いただいていると実感致します。

機械系では、学部3年次に関東地域を中心に複数の企業見学を行っておりますが、その際「機械系の卒業生がたくさん対応していただき色々な話を聞いたことがとても良かった」という回答が時代を問わず常に上位に位置付けられる学生の感想です。東北大学機械系の卒業生という一言が、互いの親近感を湧かせ、親身に感じることは、いつの時代も全く変わらない感情であり、このような感情がオープンフェスティバルを支えていることは間違いのないように思います。本年も2017年3月5日にオープンフェスティバルを開催いたします。ご支援の程よろしくお願い致します。

以上、最近の同窓会の活動を紹介させていただきますました。「最近の若者は人間関係が希薄になつている」といわれる現代であるからこそ、同窓会の強みである人的ネットワークを強化する作戦を継続的に検討し「会員間の親睦を図り、向上発展を期し、併せて母校との関係を密にすること」を目指して参りたく存じます。会員の皆様におかれましても、東北大学機械系同窓生というキーワードを積極的に使用し、会員間の交流、現役学生との交流、現役教員との交流、企業の枠を超

えた交流を進めていただければ幸いです。

最後に、これまでの東北大学機械系同窓会活動に対する温かいご支援に御礼申し上げるとともに、会員皆様とご家族様のご健勝とご活躍を祈念させていただきます。

教育の真の門戸開放に向けて

先端材料強度科学研究センター 教授

三浦 英生

国籍限定条項の壁を撤廃し、世界を跋扈する研究者や技術者を育成する英語教育コース(学部一年生から博士修了まで)が平成二九年一〇月から日本初でスタートいたします。これまで六年の歳月をかけて培つて参りました外国人留学生を対象にした国際学士コースを日本人にも開放し、文字通り国際共修コースとして、しかも一〇月入学で開講いたします。

当面入試に関しましては、文部科学省や本学入試センターの様々な制約に従うために、従来の外国人留学生を対象に実施してきました国際学士コース(IMACU)入試に、日本人を対象としました「グローバル入試」を追加し、それぞれ独立した入試を実施せざるをえません。合格者は一同に介して同床で学んでいきます。本入試を実施するに当たりまして、グローバル入試のアドミツションポリシーといたしまして、「機械知能・航空工学科(国際機械工学コース)では、大学入試センター試験あるいは国内で実施される国際バカロレア試験の成績を含め、学業成績が優秀であり、多様な国籍を持つ学生と英語で共修することにより機械工学の学理を基に人類社会の発展に資する知識・技術基盤を創成できる人を求めています。」を明文化いたしました。合わせて国際学士コースにつきましては、「機械知能・航空工学科(国際機械工学コース)では、機械工学の学理を基に、人間の生活を豊かにするため



の科学技術を創造することを追求すると共に、多様な国籍を持つ学生との交流を通じて、日本及び諸外国で国際的に活躍できる人を求めています。」に変更いたしました。本ニュースが配布されております時点で既にグローバル入試Ⅰ期(二月のAO入試Ⅲ期と同一日程)は終了しており、国内の高校からの第Ⅰ期生が確定しているかもしれません。グローバル入試Ⅱ期は海外の高校卒業予定の帰国子女を対象に、国際学士IMACU)入試Ⅱ期と同一日程で本年六月に実施する予定です。これまで日本国内への進学の道が非常に狭かった帰国子女にも大きな門戸開放が実現できるものと期待しております。

入学後のカリキュラムに関しましても、日本語コースと英語コースの科目は完全に整合させ、良い意味でバイリンガルで学べる機会も設け、国際共修を加速したいと考えています。さらに、海外との短期交換留学も支援する意味も含め、一部実験や実習を除きほとんどの専門科目は日本語コースと同時にクォーター制(同一科目を週二回教授し、約2ヶ月で単位取得可能)に移行します。

国際学士コースの第一期生(留学生)は本年三月に博士前期(修士)課程(IMACUG)を修了し、その内三名は国内の超一流企業に採用されました。これにより、日本企業に就職したいと希望する優秀な留学生在がさらに本コースに競って入学してくれることを期待しています。

このように本機械知能・航空工学科は日本国内で先駆けとなり、世界に向けて真の教育の門戸開放も実践して参ります。諸先輩方におかれましても、ご理解

と強力なご支援をお願いしたいと存じます。最後になりましたが、皆様、ご家族様のご多幸とご健勝を祈念し、ご報告とさせていただきます。

ダブルディグリー制度について

先端材料強度科学研究センター

小川 和洋

東北大学では、21世紀のグローバル化社会をリードする次世代の人材を育成するために、平成18年度からフランスおよび中国のトップにランクされる高等教育機関をパートナーとする大学院修士レベルのダブルディグリー・プログラム(以下、DDP)がスタートしました。現在は、平成20年度からは加わったスウェーデン王立工科大学(KTH)を含め、仏国のエコールセントラル国立中央理工学校(Ecoles Centrales)グループ5校(ナント校、リール校、リヨン校、マルセイユ校、パリ校)、国立応用科学院リヨン校(INSALyon)、および中国の清華大学がパートナー大学となっております。また、博士課程の受け入れ・派遣も平成23年度から開始しております。

DDPは、一人の学生が2つの大学で正規学生として所定の課程を修めた時に、両大学からそれぞれ学位を授与される仕組みで、学生の流動性向上を目指すEU諸国で多く採用されているプログラムです。グローバル社会が人々の生活に浸透している中、国境を越えて発展的な社会の構築に貢献することが求められており、その発展に寄与しうる研究者、専門家およびリーダーの育成を旨とする

のです。受け入れ・派遣者の選考には、候補者調査、大学入学以降の学業成績、語学能力、面談等により総合的に判断されます。本プログラムを使い、東北大学の学位を取得するためには、少なくとも1年間は東北大学に在籍し、該当する研究科が定める学位取得条件を満たす必要があります。修士の学位については修士論文または特定の課題に関する研究成果の審査に合格しなければならず、博士の学位については博士論文の審査に合格する必要があります。

これらのパートナー大学とは、かねてから機械系教員が交流を深めていたこともあり、機械系も本プログラムに積極的に参画し、各大学から毎年数名の学生を受け入れ・派遣しています。現在までに修士課程学生20名、博士課程学生6名の計26名を東北大学で受け入れており、そのうち機械系では14名(修士11名、博士3名)を受け入れております。一方、派遣に関しては、計14名の学生がパートナー大学にDDP学生として赴いておりますが、その内10名が機械系の学生であり、その積極性が伺えます。ただし、派遣に関しては、奨学金や言葉の問題等もあり、受け入れに比べ、少数に留まっております。今後の発展に期待したいと思います。平成28年度は、工学研究科全体で修士8名、博士3名の計11名を受け入れ、6名の学生が派遣され、勉強・研究に勤しんでおり、年々活発化しております。当研究室においても、博士課程の学生1名をINSALyonから受け入れ、同様に1名の博士学生をINSALyonへ派遣しております。

本DDPを利用し、機械系の学生が

世界でもトップにランクされる大学へ赴き、活躍の場が一層広がることを期待しています。また、DDPのパートナー大学からの学生を受け入れ、各大学との共同研究等をさらに強化することが期待されます。

青葉山コンサートの紹介

技術社会システム専攻 教授

中田 俊彦

青葉山キャンパスにメロディーが響き始めました。機械系同窓会が大学した寄贈したグランドピアノからは、昼休みに学生や教職員による演奏が青葉記念会館に音色を与えています。青葉山コンサートは、そんな日常の個々の演奏の仕上げとして、またキャンパス構成メンバーの懇親の場として始められました。実行委員会を運営母体として、演奏者の募集から始まり、会場準備、プログラム作成、広報などを有志幹事が担当しています。すでに2016年6月の第1回コンサートから始まって、12月の第3回コンサートまで実現しました。さつそく、これまでの演奏会プログラムを紹介します。

第1回 青葉山コンサート

1st. Aobayama Concert

ピアノ演奏員 / 藤田「ます」 20 / Fretz Peter Schubert
ピアノ / 藤田「ます」 20 / Fretz Peter Schubert
オーボエ / 藤田「ます」 20 / Fretz Peter Schubert
ホルン / 藤田「ます」 20 / Fretz Peter Schubert
トランペット / 藤田「ます」 20 / Fretz Peter Schubert
ドラム / 藤田「ます」 20 / Fretz Peter Schubert
サックス / 藤田「ます」 20 / Fretz Peter Schubert
チェロ / 藤田「ます」 20 / Fretz Peter Schubert
コントラバス / 藤田「ます」 20 / Fretz Peter Schubert
指揮 / 藤田「ます」 20 / Fretz Peter Schubert

日時 6月27日(月)
17:00-19:00 (開場16:45)
会場 青葉記念会館1Fロビー
入場無料 (途中の出入りOK)

主催：青葉山コンサート実行委員会

第2回 青葉山コンサート

2nd Aobayama Concert

ソプラノ / 藤田「ます」 20 / Fretz Peter Schubert
ピアノ / 藤田「ます」 20 / Fretz Peter Schubert
ピアノ / 藤田「ます」 20 / Fretz Peter Schubert
ピアノ / 藤田「ます」 20 / Fretz Peter Schubert
ピアノ / 藤田「ます」 20 / Fretz Peter Schubert
ピアノ / 藤田「ます」 20 / Fretz Peter Schubert
ピアノ / 藤田「ます」 20 / Fretz Peter Schubert
ピアノ / 藤田「ます」 20 / Fretz Peter Schubert
ピアノ / 藤田「ます」 20 / Fretz Peter Schubert
ピアノ / 藤田「ます」 20 / Fretz Peter Schubert

日時 10月21日(金)
17:30-19:00 (開場17:00)
会場 青葉記念会館1Fロビー
入場無料 (途中の出入りOK)

主催：青葉山コンサート実行委員会
後援：東日本工業大学、工学研究科

第3回 青葉山コンサート

3rd Aobayama Concert

ピアノ / 藤田「ます」 20 / Fretz Peter Schubert
ピアノ / 藤田「ます」 20 / Fretz Peter Schubert
ピアノ / 藤田「ます」 20 / Fretz Peter Schubert
ピアノ / 藤田「ます」 20 / Fretz Peter Schubert
ピアノ / 藤田「ます」 20 / Fretz Peter Schubert
ピアノ / 藤田「ます」 20 / Fretz Peter Schubert
ピアノ / 藤田「ます」 20 / Fretz Peter Schubert
ピアノ / 藤田「ます」 20 / Fretz Peter Schubert
ピアノ / 藤田「ます」 20 / Fretz Peter Schubert
ピアノ / 藤田「ます」 20 / Fretz Peter Schubert

日時 12月22日(木)
17:30-19:30 (開場17:00)
会場 青葉記念会館1Fロビー
入場無料 (途中の出入りOK)

主催：青葉山コンサート実行委員会
後援：東日本工業大学、工学研究科

12月22日開催の第3回コンサートでは、出演者は計26名、演目はピアノ、チェロ、弦楽四重奏、合唱、アカペラと多彩でした。クリスマス直前の夕べを、出演者と観客との懇親を交えて、大いに楽しみました。学外からの聴衆も駆けつけて、久々の出会いに花を咲かせました。

青葉山コンサート実行委員会は、(企画担当)村田智、(会場担当)中田俊彦、(交流担当)桑野博喜の3名です。皆様からの出演と来場をお待ちしています。

学部3年生の近郊・学外見学報告

航空宇宙工学専攻 准教授
河合 宗司

機械系4コースでは、学部3年生の正



規授業の一環としまして、各企業・研究所様のご理解とご協力を頂き、学外の工場等の見学を学科創設以来実施しております。近年は、「近郊見学と学外見学を一体化し、「近郊・学外見学」として9月頃に実施するのが恒例となっておりあります。その目的は、企業や研究所における生産活動や研究開発の現場を見学することにより、機械工学に関する大学での講義、実験および実習が実社会においてどのように活かされているか学ぶことにあります。

平成28年度は、機械システムデザインコース55名、ナノメカニクスコース43名、バイオロボティクスコース48名が9月5

日〜8日において、航空宇宙コース41名が9月27日〜30日において、仙台ニコン、常磐共同火力、日立製作所、新日鐵住金、東芝、本田技研工業、弥満和プレシジョン、IHI、日産自動車、日本精工、JFEスチール、日立ハイテクノロジーズ、ケーヒン、東芝メデikalシステムズ、ジャパンマリニュナイテッド、小松製作所、宇宙航空研究開発機構、富士重工業、日本航空の各社様、各機関様のご理解とご協力を頂き、見学させて頂きました。各コースを教員2名が引率し、筆者も航空宇宙コースの引率を務めました。

近郊・学外見学を実施するにあたり、実際に企業や研究所を見学させて頂く機会は、学生にとりまして将来の進路を考慮する上での貴重な経験になり得ると、非常に期待しております。一方で、学部3年生の多くが大学院への進学を希望していることもあり、この非常に貴重な機会を有意義に過ごしてくれるか心配する面もありました。しかし、そんな心配もすぐに杞憂に終わりました。学生達は、大規模な施設や先端的な研究施設を目を輝かしながら見学し、各企業・研究所の皆様のご説明に対してメモを取りながら熱心に聞き入っていました。また多くの企業・研究所では、機械系OB・OGの先輩方から直に仕事のお話を伺ったり質問ができる機会を設けて頂きました。学生達が先輩方と積極的にコミュニケーションを取り刺激を受けている姿がとても印象的で、私としてもとても嬉しくありました。提出された学生達のレポートに目を通して、将来の進路を考慮する観点からの記載が特に多く見られ、近郊・学外見学の意義を再認識した瞬間でもあ

りました。

本近郊・学外見学は、各企業・研究所の皆様のご協力、また貴重なお時間を頂戴することで成立しております。ご協力をいただきました各社、各機関の皆様には、ご多忙のところ事前の準備から当日の仔細にわたるご対応、また数々のご配慮を賜りましたこと感謝の念に堪えません。心より厚く御礼申し上げます。

今後も「近郊・学外見学」を通じて、実社会における工学実践や研究開発に触れる貴重な場を学生達に提供して参ります。毎年度の初頭には、引率担当教員が見学行程の計画を開始し、同窓会員の皆様をはじめ関係者の皆様に見学をお願いすることもあるかと存じます。ご多忙の中とは存じますが、変わらぬご理解とご協力を賜りたく何卒どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

海外留学体験記

機械機能創成専攻 助教
西尾 悠

私は研究大学強化促進事業「若手リーダー研究者海外派遣プログラム」にご支援いただき、スウェーデンの首都であるストックホルムのスウェーデン王立工科大で10カ月間の在外研究を行う機会に恵まれました。滞在していたストックホルムは北緯約59度に位置しており、北海道稚内市の北緯45度と比べても高緯度です。しかしながら気温は冬でも真冬日になるかならないくらいであり、東北6県とさほど変わりません。一方で特筆すべきは日没の早さです。本稿の執筆時は

12月でありましたが、この時期は9時に日が昇り午後3時には日没です。こちらの人もこれには辟易しているようで、現地に長くいる人からは悪い話しか聞かされず、さらにはどこぞのサブリメントを撰取することを勧められました(正体はただのビタミンDでした)。しかし実際はクリスマスやノーベル賞関連の催し事が多く、思いのほか楽しく過ごすことができました。

さて、滞在していたのは王立工科大のLinne Flow Centre内の実験グループでした。東北大の講座制とは異なり1グループに5名程度の教授と准教授、助教が所属し、研究員、ポスドク、博士課程の学生がそれぞれ各教員と共同で研究を進めています。ここの博士課程の学生は



研究者として雇用されており日本の初任給からいの給与や有休といった権利が与えられます。そのため、国内のみならずヨーロッパやアジア圏出身の学生や、一度企業で働いた後にドクターとして戻ってくるなど多様なバックグラウンドを持つ学生が集まっています。この傾向は教員やポスドクにも言えるようです。このような状況でしたので少し会話するだけで私にとって新しい情報が入り、刺激的な滞在であり、様々な考え方を持つ研究者の知り合いを増やすには絶好の機会でした。さらに滞在先は空気力学の分野でトップクラスの設備を持つ研究グループでしたので、自身の研究だけでなく他の研究を見学するだけでも、とても楽しい時間を過ごすことができました。私自身の研究では集中して実験ができる環境を与えられ、受け入れ先の教授だけでなく多くのポスドクやスウェーデン国外の研究者と意見交換をする機会に恵まれました。また幸いにも私と近い分野を研究している博士学生の卒業時期と滞在時期が重なり学位の審査員を経験することができました。

日本とは大きく異なる環境で長期間研究活動ができたことは今後の私にとって大変有意な体験でした。このような貴重な機会を与えてくださったこの海外派遣プログラムの関係者の皆さま、長期間研究室での業務を離れることをお許し下さった福西教授、伊澤准教授には大変感謝しております。また、大学業務をサポートしてくださった機械系の先生方、機械・知能系事務室の皆さまにも心より感謝申し上げます。また受け入れ先の Alfredsson 教授や周りのスタッフにも御礼申し

桑野博喜教授最終講義

ロボティクス専攻 准教授

北吉 均

平成29年3月末をもちまして、機械系教授の桑野博喜先生が定年退職を迎えられます。

桑野先生は、1977年に東北大学工学研究科機械工学第二専攻修士課程を修了され同年、日本電信電話公社（現NTT）武蔵野電気通信研究所に勤務、2003年までNTTに在籍されました。その間、1987-1988年米国コーネル大学客員研究員、1990年工学博士（東北大学）、1995-1996年東北大学未来科学技術共同研究センター客員教授、1997-2003年NTT技術部担当部長、研究所担当部長等を経て、2003年4月東北大学大学院工学研究科機械系教授に就任されました。

先生のご研究は、材料から加工及び応用システムに至る広範囲なもので、各種論文賞や学会フェローを受賞されました、日本機械学会理事、東北支部長、マイクロナノ工学部門部門長などを歴任されています。特に、先生が1993年に世界に先駆けてご提案されたセンサ・コミュニケーション・ソサエティは、現在のIoTやトリリオン・センサ及びビッグデータ分析にかかる基本概念であり、次世代の社会基盤となるシステムの実現に向けて自ら各種センサのMEMS化

技術の開発、自立環境発電と無線通信技術及びそれらを低価格で普及させるためのイオンビームMEMS加工技術を開発されました。2016年にはセンサ・コミュニケーション・ソサエティの実用化のために東北大学ベンチャーパートナーズからの出資で仙台スマートマシンス株式会社（資本金7千4百万円）を設立されてCTOに就任されました。

また、先生は多趣味でスキー、野球、ピアノ演奏を得意とされ学生とも楽しまれています。2011年東日本大震災当時、先生はナノメカニクス専攻長およびマイクロナノ研究教育センター長で、不安な留学生等の相談にのり、できたばかりの中央棟に集めて寝泊りさせるなどご尽力されました。

なお、最終講義は平成29年2月16日（木）、機械系第1講義室にて「センサ・コミュニケーション・ソサエティを目指して」と題して行われます。先生のご研究の集大成ならびに企業人と大学教員のご経験による新しい観点からの貴重な御講演となりますので、是非御参加下さい。



同期会報告

機械三十一年卒同期会

平成28年11月10日に内神田の「かまくらクラブ」で同期会を開きました。今年
は昭和31年卒の我々にとつて卒業60年目
という記念すべき年であります。これを
記念して同期会を仙台で開いてはと云う
提案が出されましたが、大方の賛同を得
られず、結局例年通り、東京での開催と
なりました。

10年前の卒業50周年の同期会は秋保温
泉に集まり、文集まで出して盛大に行い
ました。今になって考えると、70歳台の
我々には体調を気にせずに行動できる若
さが有ったのだと、当時は懐かしく想
い出しています。

卒業時に55名だった同期生は、現在で
は32名、そのうちで元気に外出できるの



後列左から 小田桐 佐藤 小野寺
前列左から 大野 西尾 渋谷 石川

は20名ほどでしょうか。年1回の同期会
はここ10年、東京や横浜といった関東地
方だけの開催とあつて、出席者は関東在
住者に限られてしまいました。そこで、
全員に呼びかける年次総会を、卒業60周
年の今年で終了とすることにしました。

したがって今年の同期会の最大の議題
は、来年から会合をどうしようかという
ことでした。まったく無くすのも残念で
淋しい。かといって従来やり方では幹
事の負担が大きい。

当日出席の7人で話し合った結果、「有
志の集い」を設けることに落ち着きまし
た。会合の日時、場所を固定して、原則
として案内状は配布しない。当日都合の
よい者が出席する。という案です。日時
は11月の第2週目の木曜日(11・30・
13・30)、場所は「かまくらクラブ」です。
とりあえず来年は11月9日です。そのほ
か小田桐画伯、西尾画伯が美術展に出品
すれば、誘いあつて出掛け、ミニミニ同
期会を開くことは従来どおりです。何時
まで続くか判りませんが、ともかくも会
合案が出来て皆ホッと、飲み直して歓
談のうちに最後の年次総会を終了しまし
た。

佐藤 忠教
(機械工学科31年卒)



機械三十七年卒同期会 平成二十八年(第一五回) 同級会

平成28年5月16日に表記の同級会が東
京代々木の代々木倶楽部(旧新日鉄代々
木倶楽部)で、15回の同級会の歴史で初
めて昼食会形式で行われました。(写真)

幹事は菱沼孝夫・緑川富士彦の2名。

参加者は25名、当初は31名の参加予定
の所(同級生は全部で51名、物故者は9
名)、直前に6名が健康上の理由でキャ
ンセルとなった。

同級会は、亡くなった9名の同級生に
黙祷を捧げ開始された。

昭和37年卒の同級会は、第1回は卒20



機械四十一年卒同期会

年目に秋保温泉で行われ、第5回迄は不定期で第6回(平成9年)からは2年おきに開催されて来た。

幹事は各地区の持ち回りで、これまでの開催場所は熱海温泉・千葉鹿野山・鳥羽・鬼怒川温泉・いわき湯本温泉・松島・那須湯本・箱根仙石原・秋保温泉・長野白骨温泉・神戸有馬温泉と全て1泊の同級会であったが、今回は初めての日帰り昼食会形式であった。

参加者最遠者は広島県在住の国分裕氏、写真は千葉県在住の渡辺正典氏。

当日は、昼食会の前にJ.R原宿駅に集合し、明治神宮を散策した(18名参加)。

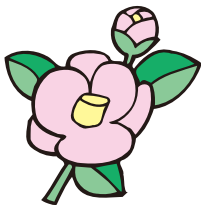
次回(16回 平成30年)は、最終回の同級会とし仙台で開催予定。

昭和37年卒業生は76〜77歳となり、今回も直前に健康上の理由でキャンセルが相次いだ事もあり、同級会は次回第16回(平成30年)を最後にする事になった。

会場は我々の第2の故郷というべき仙台を予定。

緑川富士彦

(機械工学科37年卒)



「佐渡へ」

卒業後50年目のクラス会を平成28年11月1〜2日に佐渡で開催した。我々のクラス会は、このところほぼ隔年で実施しており、平成8年以後では、箱根、日本平、別所温泉、仙台青葉山、長良川、東京湾、草津、高山、角館、そして今回の佐渡となる。箱根以来夫妻での参加を呼びかけて10回目になったこともあり、最近ではご夫人方も楽しみにしていらっしやるようだ。今回は夫人同伴10組を含め合計26人の参加であった。

今回は、幹事役で新潟在住の佐藤一也君から佐渡ヶ島の推奨があった。他の幹事からは、天候のこともあり大丈夫かと心配する声もあったが、佐渡汽船の説明で、11月初めは台風もないし欠航することはないという事であった。ところが当日朝は、予定したジェット便は荒天のため運行未定という情報。新潟宿泊に変更かと不安がよぎったが、集合1時間ほど前に運行決定と決まって一同やや安堵。しかし、風が強く、寒い新潟の海は大荒れ、船は大揺れ、出航時間になっても様子を見ているということで、なかなか出航しない。やっと出航したら、海は大荒れ、船の大揺れはますますひどく、時には衝突したような衝撃があり、自然の脅威におびえ船の進歩に感心しながら、やっと佐渡へ着いた。当日のその後の便は欠航、翌日の帰り便は穏やかだったものの、あくる日は暴風警報で朝から全便欠航で、思えば大荒れの台間をすり抜けた往復であった。



到着後は、半日のバスツアーで、佐渡金山跡、震え上がる強風の尖閣湾等を楽しんだ後、島一番料理がおいしいという民宿に到着。

集合の後、今回の幹事長の佐藤一也君の開会あいさつと、参加予定であった赤澤順夫妻及び澤柳健君が本人の健康上の理由で、黒澤優君が親族の法事という理由で、急遽欠席することになったことが紹介された。

前回の同期会後に亡くなられた石橋一紘君への黙祷の後、最遠の大分からの参加で、最近ダンスのプロテストに合格したという吉田寿樹君の乾杯あいさつに始まり、佐渡おけき、相川音頭をはさんで、恒例の近況報告が行われた。

近況報告では、健康、地域での活躍
仕事、趣味、日常生活での新たな発見な
ど、興味尽きない話が続いた。M君は医
療保険金を継続的にいただく方法を発
見、O君は東京に戻り日々の散策で新し
い銀座を発見、もう一人のO君はラジオ
体操をするのと体の動きとおなかの動きが
一致しないことを発見等、シニアの日常
生活の発見が披露された。田村は、学生
時代に引越しが始まって半世紀過ぎた
青葉山キャンパスに地下鉄が開通したの
で行ってみたこと、機械系の建物までず
いぶん歩いたこと、海野紘治君が屋根裏
に巣食っていた実験棟はリニューアルさ
れたことを報告した。ご夫人方からは、
主人の健康への気遣いと、もうゆつくり
すれば良い生活環境なのに次から次へと
やることを発見しては動き回っている亭
主にあきれているとの話が複数あつて印
象的であつた。1次会は、海野紘一君の
音頭で、恒例の「青葉もゆるこのみちの
く」で締めた。2次会では、男性方、ご
婦人方がそれぞれ輪をつくり、2年に1
回のおしゃべりを楽しんでいた。

翌日は、佐渡の半日バスツアーで、お
寺、佐渡博物館、酒蔵、トキの森公園等
を見聞。名所案内の聴き上手、酒蔵の利
き上手に、帰り便が気になるガイドがや
きまきしていた。2年後、再会すること
を誓い、穏やかな復路の船旅の後解散し
た。次回は持館昭君他のお世話で関西圏
での開催が決定している。

田村 実
(機械工学科41年卒)

機械四十二年卒同期会

平成28年4月16・17日に東北大学工学
部機械工学科昭和43年卒第3回同期会
(卒業生は52名)を、参加者15人を得て
熱海伊豆山温泉「ハートピア熱海」を会
場に開催した。実は、まさに同期会開催
の当日に熊本地震があり大きな被害と余
震の頻発が続いていたため予定通り開催
するかどうか悩んだ。しかしこれまで開
催が少なく、今回はその後の開催を多く
しようとした最初の機会ということもあ
り、予定通り開催した。

会は乾杯ののち恒例の一言挨拶となつ
たが、この中では定番の健康問題の他に、



参加できなかった友人に纏わるエピソード等が数多く紹介され、参加者のみならず参加できなかった人を含めて多くの友人に思いが広がったことが特筆される。
また熊本地震が話題の中心となつたが、東日本大地震で大きな被害を受けた仙台そして母校東北大学についても前回に引き続き話題となり、今回は特にその復興の様子に大きな関心と報告が寄せられた。復興の実態を未だ実際に目の当たりにしていない人もいるとのことで、大学の見学を含む仙台での同期会を近いうちに開催するとの提案が採択された。同期会そのものは2・3年毎に開催すること、そして前述の仙台開催をできるだけ次回までに実施することが決定された。

15人の内、3名は所用のため日帰りとなつたが、残り12名は二次会を開き夜遅くまで懇親を深めた。二次会では、地震に関連して原発の安全性を含むエネルギーの利用等に関しても多くの意見が交わされた。また、最近クローズアップされつつある企業のガバナンス問題や、海外企業による日本企業の買収・日本企業による海外企業買収等、グローバルな問題にも議論が広がり忌憚のない意見が交わされた。

最近はどうした問題をじっくり考える、あるいは議論を交わす機会が(物理的にも立場的にも心理的にも)少なくなつており、個人・技術者・企業人・経営者・社会人・日本人・国際人といろいろな立場に思いを馳せた議論を交わせたことは同期会ならではの、との感を強くした。

なお最後になりましたが、病氣療養中

でこの同期会を欠席された石川淳君が7月31日に逝去されたことを報告申し上げ、謹んでご冥福をお祈りいたします。

大和田克美
(機械工学科43年卒)

機械五十年卒同期会

2016年10月15日(土)に機械工学科S50年卒の同期生17名が青山のアイビーホールに集いました。その会場は表参道駅から青山学院に向かう賑やかな道すがら数分の所、Tokyoの一景色を感じつつの会場入りでした。

実は今回の同期会に先立ち、当時淵沢研の橋本さんに音頭をとって戴き2016年4月16日(土)に卒業後40数年振りとなる同期会を行いました。その際の決め事が2つ、ひとつは毎年10月の第3土曜日に同期会を行うこと、そして二つ目がそれぞれの同期会の幹事は研究室毎の持ち回りとするということでした。そのような経緯があり、今回は萱場研が幹事となり定例第1回目の同期会開催の運びとなりました。

- 開始時に会場内を見渡すと、
- ・先の4月の同期会では会うことができずに、40数年振りに会った人、
 - ・4月以来半年ぶりの再会の人、
 - ・また事前打ち合わせを口実に最近も学生気分でごトコトン飲んだという人たちなど、

それぞれ時間差のあるタイムマシンから降りたような人たちの顔がありました。最初はエイリアンとの遭遇かと思わせるようなヨソヨソしい雰囲気もあり



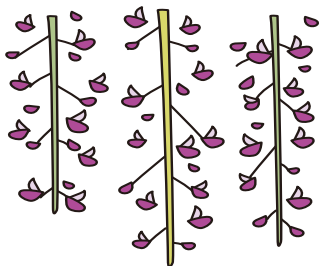
ましたが、研究室ごとの近況報告のあたりから当時の記憶も少しは蘇り、「変わらないな〜」やら、「太ったな!」など過去の記憶を楽しむ余裕も出てきました。

今回の参加者は、当時の研究室別には大塚研2名、萱場研3名、斎藤研2名、鈴木研3名、武山研2名、玉手研2名、畑中研1名そして淵沢研からが2名でした。また地域的には、遠くは宮城県石巻から参加の山本憲一さんをはじめ、茨城県3名、神奈川県4名、埼玉県3名、静岡県1名、千葉県1名、そして東京都からが4名でした。

次回(2017年10月21日(土)予定)の定例第2回同期会の幹事役は、玉手研の坂本さんと圓谷さんが持ち帰ってくれ

ました。今回は遠方から来る方への配慮を考えようとか、高齢者の仲間入りを考慮して保護者役?の身内の同伴も可しよう、などの声もありました。次回も楽しく、より多くの同期生が集まりますように!

新井 秀雄
(機械工学科50年卒)



機械五十五年卒同期会

平成28年9月10日、2年振りに東京八王子周辺で同期会が開催され25名が参加しました。前回は大学時代勉学に励んだ(つもり) 思い出の青葉山キャンパスで行われましたが、その時参加できなかったメンバーも多く参加し懐かしい再会となりました。

集合は西八王子駅南口に10時、還暦前後の元気なおじさま方が大勢集まっている光景はちよつと目立つ存在だったと思います。その後向った先は清宮君が社長を務める株式会社テージーケー、エアコンを始めとする自動車用機器の制御部品や家庭用水廻り部品を作っている会社です。なんと月産1000万個の部品はシェア世界第2位とのこと！ でも2社でしか作っていないので同時に世界ピリとの説明は笑いを取っていました。二手に分れ工場を見せられました。3Sが行き届き良い環境で良い仕事ができているな、といった印象でした。開発部門は様々な試験設備、計測機器が整然と配置されており実車相当での確認そして解析もしっかりと行っていました。歳を取ってもなお好奇心旺盛な輩の次から次と続く質問、そしていろいろなものをじっくりと見入っているうち、あつと言う間に予定時間をオーバー！ 清宮君の巻きが入り懇親会会場へのバスに乗り込みました。

懇親会は高尾の緑深い山あいにある“うかい烏山”で行われました。冷酒での乾杯の後は美味しい料理に舌鼓を打ちながらの近況報告、まだまだ重責を担い

多忙な時間を過ごしている方、そして無事定年を迎え自ら新たなチャレンジをしようという方など様々でしたが、皆さん生き生きと人生経験を重ねて来たようでした。また前回の同期会では出なかつた還暦祝いの話もあり“赤いちちゃんこを着せられて孫に祝ってもらった”とかのほのぼのした話題もありました。締めは“青葉もゆる”の大絶唱、私自身学生時代ほとんどど歌つた記憶が無いのに何故か普通に歌えるのはやはり知らない間に摺り込みがあつたと思えない不思議な感覚でした。

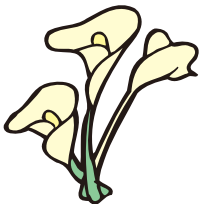
昼過ぎから快調に飲み続けて大いに盛り上つた一次会の余韻そのままにまたまたテージーケーのバスで八王子駅前に移



動、二次会突入となりました。二回目の乾杯の後、橋田君から現在の東北大学の説明がありました。仙台駅から工学部まで地下鉄東西線が通じたこと、ゴルフ場跡に新しいキャンパスを作っていること、優秀な学生を集めるためにいろいろな工夫していることなど様々でしたが、一番の驚きは教授の講義を学生が評価するということでした。教授と言えば研究に没頭できる環境で自らの裁量で仕事に打ち込むイメージでしたが時代の変化か？ 大学も大きく変わったようです。次回同期会幹事は積極的に手を挙げるメンバーで即決定！ 2年後に横浜中華街ということになりそうです。いい加減出来上がったノリで羽田の整備工場に行きたい、とか扇島の製鉄所を見たい、とか好き勝手言っていました。がさてどうなることやら？ 次は全員が還暦を過ぎる歳となりますが皆さん健康に気をつけてお元気で！

最後に今回の幹事さん、そして清宮君を始めとし休日を返上していただいたテージーケーの皆様方、本当にありがとうございました。

新山 常文
(機械工学科55年卒)



機械第二十四年卒同期会

昭和41年卒業の我々は今年が卒業50年の節目になる。これまで同期会は東京を中心に開催されて来たこともあり、今回は仙台の今昔にスポット当て開催された。

2016年9月7日秋保のホテルに、前泊してゴルフに日焼けした5名も合流し、遠く和歌山や名古屋から駆け付けた人を含め、計18名が参集し、会を盛り上げた。

近況報告では、一週間の午前・午後の活動状況を披露する人、毎日朝昼夕の3食を調理する人など、そろそろ後期高齢者に近い年にもかかわらず、夫々元気盛



2016年9月7日 東北大学工学部機械
工学第二学科1966年卒 50周年記念
同期会 秋保グランドホテル

んな活動の紹介があり、爆笑と感嘆のうちには時を過ごした。中には50年振りに再会した人もいたが、学生時代にタイムスリップして、楽しい時を過ごした。

翌日は台風崩れの温帯低気圧で雨模様の中、ホテルを出発し、るーぶる仙台（循環バス）で青葉城跡を経て、青葉山キャンパスの機械棟に到着した。我々の年代は大学1、2年次は川内キャンパス、3年次は片平キャンパス、4年次は青葉山キャンパスで、新設された機械棟に最初に入った世代であり、その建屋は5年前の東日本大震災にも崩壊することなく、生き残っていた。全般的に増設、改装されているが、基本構造はそのままの様であった。ここでは、機械系同窓会事務局の武井さんのお取計らいで足立研究室を見学させて戴くことになった。3班に分けて3つの実験室に伺い、研究テーマとその成果について、非常に丁寧な説明を受け、現在の研究手法や実験設備など興味深いものがあつた。廊下から学生の控室など覗き、各机の上にパソコンがある以外、「ここは昔と変わらないな」との声もあつた。青葉記念会館で昼食の後、再度るーぶる仙台で、青葉山キャンパス、川内キャンパスを通り、定禅寺通りから一番町を徒歩で、すっかり変化したが、所々に思い出の残る町を歩いた。片平キャンパスでは3年次に出入りしていた石のアーチ式玄関やロビーを古い記憶から思い起こしていた。雨脚が激しくなり、最後は慌ただしい状況となったが、又の再会を約して、散会した。

篠崎 厚志

(機械工学第二学科41年卒)

精密三十二年卒同期会 第十八回目の同級会

平成28年(2016年)11月8日(火)の午後、東京都文京区の小石川後楽園内の「涵徳亭」で、第18回目の同級会を開催した。出席者は14名で、昨年より1名多い。

東京の気温は日中の最高気温が13・6度で、前日(立冬)の14・4度より低い日であるにもかかわらず、開始時刻までに全員が揃い、集合写真の撮影を、山崎勉氏にお願いする。涵徳亭の庭を背にして二列に並び、シャッターを押してもらう。

ビールで乾杯のあと、差し入れの日本酒を味わいながら食事を始める。各自の近況を示す一覽表のなかには、病氣療養中やリハビリテーション中のため外出に自信がなく、または体調不良のため欠席する人がいる。眼、耳、心臓、腰、脚のうち、いずれかの部分に問題を抱えている人もいる。

全員がすでに81歳を超えていることを考えると、毎年こうして元気に集まれることに感謝しなければならない。

朝5時に起き、神戸から日帰りで開催した友人は、今も週3〜4回、毎回10kmを2時間かけて歩いている。10kmのうち、2km程度は、時速6km以上で歩き、心臓に負荷をかけるようにしている。

塩竈市在住の友人は、同級会の二日前から神奈川の旧友を訪ね、ゴルフをしたあと出先から出席した。今も、地元の出身校のクラス会の世話を続けている。80歳を過ぎ、活力の衰えを感じても、仕事



前列左から、福来友康、横山靖男、神賀弘、小泉晋、市川嘉宏、山本義次郎
後列左から、山崎勉、永田充、小野傳、上西武仁、町眞次、加藤洋、小林貞雄、八戸信昭

や趣味を通じ仲間との絆を大切にし、同期会に参加している。

成年後見人をしてしている永田充氏は、2016年4月に認定社会福祉士（地域社会・多文化分野）に登録され、今後5年間、地域福祉の推進と後輩の育成活動をするようになった。

2016年8月、ドイツ、チェコに行き、川船クルーズを楽しんできた健康で病気知らずの友人もいる。同級会の席では、闘病生活の話題が多くなりがちであるけれども、いずれは我が身と思いがちで聴かせてもらったと、後日感想をも

長年住んでいる町のために、コン

ピューターを使い、町の合唱団のために、CD-ROMのタイトル印刷や、料理クラブの「実施計画・名簿作成」などの仕事を、ボランティアで10年近くしている友人もいる。

エメラルド婚（55年）を迎えた山崎氏は、記念の会を仙台市で開いた。二男が仙台に住んでいるので、行ってみたところ市内がすっかり変わってしまっていて、昔のおもかげを探すのに苦労した。

平成29年の同級会は、卒業後60年目にあたる。仙台で開催することを検討したけれども、手をあげる者が少なく、来年も11月に、同じ会場（涵徳亭）で開催する。ただ、単身での出席に不安を感じる者や、家族が足元を心配する場合も予想されるので、10年ぶりに同伴者との出席を考えている。

八戸 信昭

（精密工学科32年卒）

精密四十二年卒同期会

2016年10月11・12日両日にわたり同期会が開催されました。2年後は仙台でという申し送りに従い、仙台開催としました。東京からの参加者も多いと考え、東京からバスで仙台、温泉地で宴会宿泊、大学見学との案でスタート。いろいろのアイデアがあり、最後は「バスで巡る震災復興地と懐かしの母校」（坂井氏命名）と銘打って実施しました。

東京より11名（東京幹事田中さん）、バスで仙台へ。永井先生、箱守先生、加藤先生、守時先生の4名と、他6名が仙台より参加（仙台幹事吉野さん）、全部

で21人の集団で、津波で被害を受けた荒浜地区、閑上地区を見学し復興ぶりをつぶさに見学しました。吉野さんの事前調査名案内に感謝しつつ、夕闇迫るころ、秋保温泉緑水亭に到着。宴会を開催し、先生方からまだまだ研究が続いていると檄を飛ばされました。各人の近況報告では、学ぶ人、研究する人、教える人、介護する人、遊ぶ人、それぞれの貢献、それぞれの楽しみ、を知りました。夜遅くまで二次会を楽しみました。

翌日は「懐かしの母校」東北大学の元精密工学系のナノ計測制御分野、新エネルギー変換工学分野の研究室を訪問し、



我々の頃には居なかつた若手の女性研究者らから、研究内容を紹介していただきました。昼は市内で牛タンを食し、解散。仙台組に見送られ、無事帰郷しました。

せっかくの仙台なので他に回りたい人、年なので「バスは？」という人もあり、東京からのバスはゆつたり。安くつくかとの思いもあてはずれ（会計幹事福永さん）。「いいかげん」と言われながら、「好い加減」には自由がある・夢があると突っ走った代表幹事の責任です。次回は2年後、東京で会いましょう。

荒井 攻

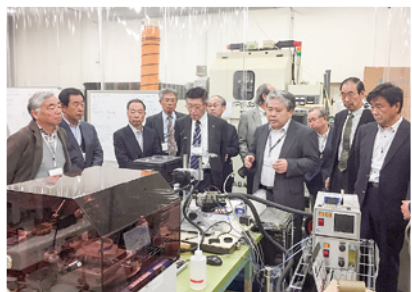
（精密工学科43年卒）

精密四十六年卒四十五周年同期会

今回の同期会（H28年10月27日開催、幹事長は村田稔氏）のねらいをキーワードで示せば以下の通りであった。地下鉄で、現役教授からの学科説明、S46同期の佐竹秋田県知事の講演会、恩師も招いての懇親会、以上をすべてキャンパス内で。

地下鉄の駅の位置はよく話題になるが、工学部の西のはずれにあるのは、さらに拡大が進み将来の人口の重心はここになるとの説明があり、納得。15分歩いて機械系のエリアに。受付の集計で参加者24名と確定。

我々の学科・旧精密の出身である厨川常元教授とその研究室の全面協力により、新生機械系の紹介があり工場とカナル・ホールのツアーもお願ひできた。ナノ精度の表面加工等の先端機にも目を見張ったが、古い旋盤がよく整理され



たエリアに手入れされてならんでおり、「5S」も手を抜いていないことが印象的であった。

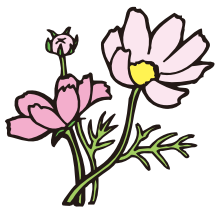
佐竹知事の講演会は幸運にも工学部恒例の「トップリーダー講義」として実施され、中央棟大講義室で工学研究科長以下の聴衆を前に行われた。学部生、院生他広い層が参加した。印象をひとことと言えば、2期目後半の現役知事の持つ「迫力」であったかと思う。以前からの温厚な印象に加え、TOPとしての説得力が表現にも出ていた。技術系が多い聴衆達にしつかりクルート情報も出していた。

最後の懇親会は記念会館の「四季彩」

で。3人の恩師「永井伸樹、箱守京次郎、加藤正名の各先生」と当日お世話になった厨川教授、須藤准教授、同窓会事務局にも参加いただき、気軽でかつなごやかな懇親の場となった。印象的だったのは、3人の恩師の背すじが相変わらず伸びていて決してイスに座らず、立ち続けておられたことで、お話の内容もさることながら、その姿に今回も激励された。その後、有志は夕暮れとなった青葉山を下り、市内での2次会に多数が参加し、再び盛り上がったことも追記しておきたい。

盛りだくさんのメニューだったが、時間通りに進んだだけでなく、中身の濃い、充実したものになったのは学科、学部、同窓会事務局の心のこもった全面的な支援によるもので、改めて感謝したい。

石崎 義一
(精密工学科46年卒)



精密五十二年卒同期会

10月29日(土)～10月30日(日)の2日間に21名が参加し、卒業以来仙台で初めて同期会を開催しました。

昨年6月に東京で同期会を開催した折、今年是非仙台で開催したいとの要望があり仙台での開催となりました。宮城県出身の佐藤英光、鈴木哲、澁谷啓己、佐藤清史の4人が幹事として9か月かけ案を練り実現しました。

10月29日の午後1時に仙台駅の新幹線中央出口に集合、その後昨年12月に開業した地下鉄東西線で青葉山まで行き、懐かしの工学部構内を歩いて旧精密工学科に到着、事前に来訪を連絡していた機械系同窓会事務局の武井様のご尽力で校舎内を特別に見学させていただきました。

校舎は改装により明るくそして綺麗になつており、昔は無かった気がする女子用トイレも各棟にありました。CAD全盛の時代にも拘わらず、製図室は昔と同じドラフターがあり懐かしく思いました。また、年中無休で24時間営業のコンビニもあり驚きました。

武井様から頂いた資料から、機械系3学科が時代のニーズに応じて改組進出し、科学技術の発展に貢献していることがわかりました。

最後に、39年前と同じ場所ですべての写真撮影をして見学を終えました。

その後、再び地下鉄で一番町に向かい仙石線青葉通り駅まで、アーケード街(旧名掛丁)を散策し、街の変貌ぶりを実感しました。

散策後、仙石線で松島海岸駅に向かい、

ホテル壮観に17時半頃に到着、部屋割りを行い、早速一次会の前に温泉で疲れを癒しました。

一次会はバイキング形式で、二次会は宴会用に割り当てた一室に集まり、冒頭に物故者に黙祷を捧げた後、地元宮城の銘酒をメインに酒を酌み交わしながら、全員の近況報告や学生時代の四方山話が続ぎ、夜遅くまで話は尽きませんでした。全員が還暦を過ぎ、家庭内での自分の存在の変化を各々報告し合う場面もあり大いに盛り上がりました。

翌日は、震災遺構訪問組と解散組に分かれ行動しました。解散組はホテル送迎バスで松島駅に向かい仙台で解散。震災遺構訪問組(12名)はマイクロバスで石巻市立大川小学校に向け10時頃ホテルを



出発。約50分で大川小学校に到着、震災の凄さ、悲慘さ、危機管理の難しさを痛感しつつ、献花、焼香し亡くなった児童、先生達の冥福を祈りました。

見学後、道の駅（上品の郷）に寄り、昼食と買物をし、その後マイクロバスで仙台駅に約1時間で到着し、13時半頃に解散しました。

大学を卒業して39年振りに仙台で同期会を開催出来て、旧交を温める楽しく、心に残る同期会となりました。

また、震災の傷跡が完全には癒えない海岸地帯や、仙台市内や大学の変貌ぶりを感ずることが出来て、素晴らしい思い出になりました。

最後に、母校の益々の発展を祈念致します。

佐藤 英光

（精密工学科52年卒）



平成 28 年度東北大学機械系同窓会通常総会・特別講演会のご案内

拝啓 春寒の候、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

日頃、東北大学機械系同窓会の活動に対しご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、平成 28 年度通常総会ならびに特別講演会を下記要領にて開催いたします。今回は、ジーディーキューブコンサルティング代表吉村達彦氏（機械第Ⅱ 41 年卒）より「発見力と素人力 ～信頼性と共に 50 年～」と題した講演を賜ることになっております。

皆様お誘い合わせの上、ご参加下さいますようお願い申し上げます。

敬 具

記

日 時：平成 29 年 3 月 4 日（土）

会 場：東北大学工学部中央棟 2 階

（青葉山キャンパス センタースクエア内）

〒 980-8579 宮城県仙台市青葉区荒巻字青葉 6-6

次 第：14:00-14:30 総会

14:40-15:40 特別講演会

題目：発見力と素人力

—信頼性と共に 50 年—

講師：吉村 達彦 氏（機械第Ⅱ 41 年卒）

現 ジーディーキューブコンサルティング代表

元 トヨタ自動車（株）シャシー技術部部长、

九州大学教授（固体力学）、

米国ジェネラルモーターズエクゼクティブダイレクター

16:00-17:30 交流会

会 費：5,000 円



特別講演会（14:40-15:40）

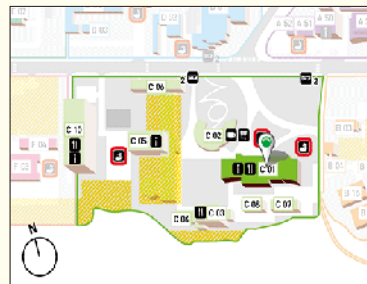
「発見力と素人力—信頼性と共に 50 年—」

吉村 達彦 氏 ジーディーキューブコンサルティング代表

経歴 機械工学第 2 学科 S41 卒業、同修士課程修了後、トヨタ自動車開発部門で 32 年間、九州大学教授（固体力学）として 3 年間、米国ジェネラルモーターズエクゼクティブダイレクターとして 4 年間勤務後現職 工学博士（東北大学）

横堀武夫先生が研究室に置いて行かれた「Interdisciplinary Approach to Fatigue (ASME)」の Heller の疲労と信頼性を結びつけた論文を読んでから 50 年、何らかの形で、信頼性と関わってきたように思います。そして、信頼性の統計的な表現に理論的意味づけを考える研究に始まり、実業の世界で製品の信頼性を高める仕事に移り、さらに、信頼性問題を未然に防止するには、という世界に踏み込んでしまい、振り返れば、失敗と挫折の連続でした。

そのような中から、最近到達したキーワード「発見力」と「素人力」について、披露し、さらにこれからの方向について問題提起をさせていただきたいと思っております。



会場へのアクセス

◎仙台市営地下鉄東西線

「八木山動物公園」行きに乗車、

「青葉山」駅で下車（乗車時間 9 分）

センタースクエア（C エリア）まで
徒歩約 10 分

◎タクシー

所要時間約 20 分

詳しくは、工学部キャンパスマップ

<http://www.eng.tohoku.ac.jp/map/>

?menu=campus をご覧ください。

学生支援に関するご報告

毎年、機械系の学生に対して様々な支援を実施しております。5月には恒例の工明会運動会に機械系4専攻と流体力研の各代表者に2万円ずつの支援(計10万円)、また機械系の女子学生に対する支援(10万円)、3月の卒業証書授与式後に開催される謝恩・祝賀会に支援(10万円)を行っております。

また、機械系学生と先輩との交流会として、機械系オープンフェスティバルを3月に開催しております。

この場をお借りしまして、同窓会の活動にご支援頂いた会員の皆様に厚く御礼申し上げます。



事務局便り

- ◎同窓会室は機械系2号館3階320室です。
- ◎同期会の原稿(同窓会ニュース)および同窓会誌の原稿を募集しています。
文字数・要綱につきましては事務局までお問合せください。
Tel/Fax : 022-795-6926
E-mail : dousou@mech.tohoku.ac.jp
ホームページがリニューアルされました。
<http://alumni.mech.tohoku.ac.jp/>
(旧ホームページ <http://www.dousou.mech.tohoku.ac.jp/> に新ホームページのリンクを貼っております)

- ◎住所変更の場合、新住所をお知らせ下さい。
- ◎懐かしいお写真を事務局までお寄せください。会誌、ニュースレター、ホームページに掲載させていただきます。
- ◎同期会の開催を支援します
同期会等の開催を支援致します。開催計画がお決まりになりましたら機械系同窓会事務局までご相談下さい。同期会の開催予告等をホームページやニュースレターに掲載致しますのでご連絡下さい。(ホームページは随時、ニュースレターは発行の2ヶ月前まで受付いたします。)

編集後記

同窓会ニュースレター22号をお送りします。皆様には、機械系の活発な活動をご周知頂き、今後とも同窓会運営にご協力頂ければ幸いに存じます。最後になりますが、原稿執筆をご協力下さいました皆様に厚く御礼申し上げます。(編集委員一同)

22号の表紙 駐輪場から見た機械系2号館

■同窓会事務局
月・水・金 10:00～16:00
Tel/FAX 022-795-6926
E-mail dousou@mech.tohoku.ac.jp

会費納入のお願い

同窓会を円滑に運営し発展させていくためには皆様のご支援が必要不可欠でございます。何卒、会費の納入をお願い申し上げます。年会費(2,000円)は、同封の振込用紙もしくは、ゆうちょ銀行口座をご利用ください。

他金融機関からの振込先は、ゆうちょ銀行229店
当座 0011176です。

会費納入にご協力くださいますようお願い致します。